

平成 30年 8月 29日

時 分 受理

受付順位

発言順位

発 言 通 告 書

藤枝市議会議長 西原明美 様

藤枝市議会議員 2番 増田克彦 ㊟

次のとおり通知します。

発言の種類

代表質問

一般質問

緊急質問

1. 標 題

地域介護福祉の現状について

答弁を求める者 (市長・担当部長)

(要旨・内容)

団塊の世代が後期高齢となる 2025 年を見据えて、本市は他市町に先駆けて健康福祉部内に地域包括ケアの専門部局を設置し、地域包括ケアシステムの構築を進めて参りました。この成果として地域介護福祉の分野における本市の制度・仕組みづくり、インフラ整備の進捗には目覚ましいものがあると思います。この分野につきまして質問いたします。

- (1) 地域包括ケアの体制では医師会、薬剤師会、ケアマネージャー、自治会などの各種機関のネットワークが構築され、介護福祉の仕組みが円滑に稼働しているものと理解しています。このような仕組みの中で、地域における支え合いの互助がうまくいったという具体例にはどのようなものがあるか伺います。
- (2) 健康で活力のある高齢者、いわゆるアクティブシニアの皆様は、①要介護・要支援の人たちの地域における支え手となること、②本人がアクティブを維持すること(介護予防)、の 2つの観点から今後が期待されているものと考えます。これについて伺います。
 - ①地域包括ケアシステムにおいてアクティブシニアが支え手として協力する形態、あるいは組織体制はどのように設定されているのかを伺います。
 - ②介護予防に関してはアクティブシニア大学の設置など、さまざまな方策がとられていますが、それらへの自立高齢者の参加率、及びその客観的な効果について伺います。

- (3) 在宅介護においては、介護者自身が家事をこなすのに苦慮すると伺っています。これに対する支援の取組として、市のサポートにより買い物支援などの試みがなされています。こうしたサービスの現状と、今後における類似のサービスの可能性を伺います。
- (4) 昨年、在宅医療に ICT を取り入れた県の取組として「シズケア*かけはし」が稼働開始しました。これが本市の包括ケアシステムにどのように組込まれるのか伺います。また、このほか介護福祉の分野における本市の ICT の導入の予定を伺います。

2. 標 題

シルバー人材センターの今後について

答弁を求める者 (市長・担当部長)

(要旨・内容)

シルバー人材センターには高齢者への就業機会を提供する機能の発揮と、活力ある地域社会づくりへ参加などの期待がますます高まっているところ
です。一方、シルバー人材センターを取り巻く環境は大きく変化してきてお
り、高年齢者の就業ニーズの変化・多様化に対応し、適正就業の一層の推進、
派遣事業の「臨・短・軽」の緩和への対応など新たな課題も生じております。
ここでは藤枝市シルバー人材センター(以下センター)の現状と、今後の市の
取組について伺います。

- (1)センター会員数が平成 21 年度の 1,175 名から現在の 880 余名と漸減して
いくなか、H36 年には会員数 1,000 名への増員を目指しているとのこと
です。会員増員のために本市行政としてどのように支援していくのか伺い
ます。特に今後の広報についての取組を伺います。
- (2)受注業務の 60%が一般作業とやや偏った受注の中で、会員の就業ニーズ
と受注業務のミスマッチが生じております。事務職、技術職などの雇用
を増やすことが会員数減の歯止めにも有効であると思われま。このよ
うな専門的業務のシルバー雇用を推進する企業を優遇する、あるいは市
の各種施設の事務管理業務をシルバー人材から派遣する、などの施策の
可能性について伺います。
- (3)センターは他市町に先駆けてシルバーによる病児保育を開始しました。
今後ますますこのような介護福祉方面への高齢者の参画が望まれるとこ
ろです。センターの取組に対する、市としての今後のサポートを伺いま
す。
- (4)前項の病児保育など、業務の多様化に伴ってセンター建物が手狭になっ
てきています。また、シニアにとって会員が集いコミュニケーションを
通わせる場としてのセンターのあり方も重要であると考えますが、その
ために十分な空間が取れていません。これに関して市としての考え方を
伺います。

(※ 内容は詳細に記入してください。)